

八王子地区保護司会だより

第 103 号

平成 29 年 8 月 15 日発行

発行 八王子地区保護司会

編集 広報部

電話 042-657-4928

百年の彩りを
次の100年の
輝きへ



「みんなに届け！ 私たちのメッセージ」のステージから

再犯の防止等の推進に向けて

東京保護観察所立川支部

支部長 前川 洋



このたび、ご縁あり、立川支部管内の更生保護関係者の皆様と再びご一緒に仕事をさせていただくことになりました。立川支部には平成 22 年、23 年の 2 年間統括保護観察官として勤務した経験があり、再び当地で仕事をさせていただけることに感謝し、気持ちを新たに業務に取り組んでまいりたいと思いますので、皆様方の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、東京保護観察所では平成 29 年度の重点事項として、①再犯防止に向けた取組の充実強化。②保護司の安定的確保及び保護司活動の充実等について掲げております。

ここ数年、犯罪をした人や非行のある少年の再犯・再非行の防止、安全・安心に暮らせる社会の構築を図るために犯罪をした人や非行のある少年を、社会から排除し、孤立させるのではなく、責任ある社会の一員として再び地域社会に受け入れることの重要性が指摘されています。

昨年末には、「再犯の防止等の推進に関する法

律」が成立・施行されました。犯罪をした者等の円滑な社会復帰を促進すること等による再犯の防止等が犯罪対策において重要であることに鑑み、再犯の防止等に関する施策に関し、国及び地方公共団体の責務を明らかにした基本理念等が定められました。八王子市における再犯防止のためには、国の行う施策とともに、地域の状況に応じた地方公共団体の取組が有効であると考えられます。今後は国、そして更生保護関係者の皆様方の御協力を得ながら、地方公共団体とのさらなる連携強化を図り、社会全体で立ち直りに向けた支援を充実させていくこととなります。

八王子地区保護司会の皆様には、これまでも社明行事の実施などさまざまな場面で地域に根ざし、地域と共に歩みながら立ち直りを支える活動を着実に実践していただいておりますが、この法律による具体的な取組の第一歩を本年度は踏み出すこととなります。保護観察所としましても、これまでの実績を大切に、さらなる充実発展に向けて力を尽くす所存ですので、御協力方どうぞよろしく願いいたします。

連携・協力・再犯防止！

八王子少年鑑別所（八王子法務少年支援センター）

所長 紀 恵理子



4月1日付けで着任いたしました。八王子地区保護司会の皆様におかれましては、平素より、当所の運営に深い御理解と御支援を賜りまして、心から厚く御礼申し上げます。

さて、国を挙げて再犯防止対策に取り組んでいる現在、これまで以上に保護と矯正とが連携・協力することが重要であることは言うまでもありません。近年、少年犯罪は減少傾向にあります。社会の耳目を集める特異重大な事犯を初め、非行に係わる問題性が多様かつ複雑なケースが散見され、社会内処遇の効果に寄せる国民の期待は一層高まっているものと思われまます。

処遇効果を上げるためには、少年ひとりひとりの心に寄り添い、非行の原因を十分に理解し、問題点ばかりではなく、長所にも目を向け、個々に

応じた的確な働き掛けを適時に行っていくことが不可欠です。アセスメント（心の診断と理解）なしのトリートメント（処遇）はあり得ません。保護司の皆様には、この点を十分に御理解いただきたいと思ひます。

少年鑑別所は、非行少年のアセスメントを行う専門機関であり、収容されている少年だけではなく、保護観察処分となった少年について、その性格や能力の調査、処遇のポイントの提示、処遇効果の検証などを行います。また、八王子法務少年支援センターという名称で取り組む地域援助活動として、保護司の皆様を初め、更生保護関係者の方々のスキルアップ研修、地域での講演などもお引き受けしています。皆様のお役に立つと同時に、私たちも保護観察指導の新しい取り組みや地域の実情について学ばせていただき、処遇についての知見を深めたいと思ひています。

保護司の皆様、様々な形で連携・協力を進め、少年たちが再非行することなく健やかに成長できるよう、共に励んでまいりましょう！どうぞよろしくお願ひいたします。

平成29年度活動方針

—八王子地区保護司会の皆さんへ—

八王子地区保護司会

会長 内田 實



昨年の犯罪白書によれば、全国の刑法犯認知件数は99万6千件余りで、最低を記録したとありました。平成14年には285万件あったそうですから14年間で激減したことになります。

確かに保護観察件数も減ったと実感しておりますが、最近の八王子地区の補導件数や再犯者は減っていないとの報告があります。私どもはそれなりに努力してきたつもりですが、まだまだ手を緩めることは出来ません。

再犯、再非行の防止については「再犯の防止等の推進に関する法律」が施行され、国、地方公共団体、保護司会などの民間団体が連携して推進す

ることになり、具体的な施策が決まり次第保護司会は各機関と連携して推進していきたいと思ひます。

再犯防止には就労支援が大きな力となりますが、就労支援金制度やハローワークの支援も充実してきました。当地区保護司会としては協力事業主会の充実を図り、その任を担って頂きたいと考えています。

八王子地区の保護司会の増強については、日々会員各位に勧誘をお願いしているところですが、引き続き今年度もいろいろな分野の方に入会して頂けるよう努めたいと思ひます。

保護司はあくまでもボランティア（崇高な）ですから明るく楽しくやって頂きたいと思ひます。会員の方は長年培ったそれぞれの趣味、楽しみをお持ちだと思ひます。同好の士が集まり、更生保護を忘れ、堅い話は抜きにして親交を深めることも時には必要と考えますがいかがでしょうか。ひいては会員の絆を強め、組織の活性化にも繋がるものと考えています。

平成29年度 八王子地区保護司会定期総会開催さる

平成 29 年 4 月 28 日（金）、京王プラザホテル八王子にて、標記定期総会が開かれ、平成 29 年度の保護司会活動が承認され出発しました。平成 29～30 年度八王子地区保護司会の主な陣容は以下のとおり。

- 顧問 大竹 通夫、石森 孝志
- 相談役 小泉 俊男、吉田 隆明
- 会長 内田 實
- 副会長 三入 重夫、塚本 秀雄、荒井 浩平、山中 廣司
- 監事 大貫 雅之、木住野 暢大
- 分区長 長谷部 好昭（東） 小池 公江（中央） 深須 達男（高尾） 新野 照代（西）
佐藤 益國（みなみ）
- 各部長・委員長 前田 善一郎（総務） 三橋 正行（研修） 畑野 和子（地域活動）
山田 雅彦（広報） 加藤 克明（協力組織） 平澤 東（学校担当）



八王子地区保護司会（平成 29 年 5 月 15 日現在） 定員 154 人

東分区		中央分区		高尾分区		西分区		みなみ分区		内勤警察		合計	
26		24		27		32		29		3		141	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
16	10	20	4	19	8	25	7	25	4	3	0	108	33

◆警察署だより◆

～最近の少年非行について～

（前）警視庁八王子署少年第一係 横田 光弘

八王子地区保護司会の皆様には、活動の各搬にわたり、深くご理解とご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

少年警察活動をめぐる情勢は、少年非行の悪質化、児童虐待、JK ビジネスなどの福祉犯罪被害等、非常に厳しい現状であり、これらの諸問題に積極的に取り組んでいるところであります。

さて、最近の少年非行の傾向については、刑法犯の検挙人数が、昨年に引き続き減少傾向となっている反面、少年の再犯率の上昇と非行の低年齢化が更に進んでいる状況にあります。

特に、特殊詐欺の「受け子」と呼ばれる被害者から現金を受け取る役割として、アルバイト感覚で重要犯罪に荷担する少年が増えています。

最近では、報道でも話題になっていますが、女子高校生等の性を対象とした「JK リフレ」「JK お散歩」といった、いわゆる JK ビジネスという、新たな営業形態も出現し、客からのストーカー被害や性的被害が問題になっています。

さらに、スマートフォン等の急速な普及により、出会い系サイトやコミュニティサイトを利用した不特定の相手との交流により、性的被害や脅迫等の被害も増加しています。

これらの背景には、少年自身の規範意識の低下に加え、少年自身が居場所を見いだせず孤立している

等の現状が指摘されています。

八王子警察署としては、これらの諸問題に対して、学校での非行・被害防止教室の実施、各種被害防止キャンペーン、立ち直り支援活動等の「非行少年を生まない社会作りの推進」を強力に実施し、やがて社会人となる少年に社会のルールを教えるための活動を実施しているところです。

次世代を担う少年の健全育成の為には、八王子地区保護司会の皆様をはじめとする関係団体、地域住民の方々との連携が不可欠ですので、引き続き少年警察活動へのご支援とご協力をお願いいたします。

新任の保護司紹介

～どうぞよろしくお祈いします～
（平成 29 年 5 月 15 日発令）



☆田 中 康 夫 西 分 区
住所 叶谷町



☆山 田 敏 雄 西 分 区
住所 大楽寺町



～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～
“第67回 社会を明るくする運動”
 平成29年7月1日～31日

駅頭 広報 活動 スナ ッ プ



八王子駅北口



“社会を明るくする運動”は、全ての国民が、犯罪や非行の防止と、あやまちをおかした人々の立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。安全で安心な国づくりのためには、犯罪や非行をした人を地域から排除したり、孤立させるのではなく、適切な「仕事」や「居場所」の確保を通じて、責任ある社会の一員となるよう支えていくことが大切です。立ち直ろうとする人にとっては、地域の方々を初め、地方公共団体やさまざまな機関・団体による支えが何より重要であり、励みとなります。

八王子市実施委員会では、“社会を明るくする運動”の一環として、八王子地区保護司会、更生保護女性会、民生児童委員、BBS 会会員、市役所児童青少年課等 18 団体とともに 8 駅 11 カ所の駅頭において、運動のテーマを力強くアピールしながら社明のための実践活動の充実感をかみしめていました。



めじろ台駅



高尾駅北口



京王八王子駅



八王子みなみ野駅

みなみ野では、スピーカーシステムを持って来てくださった方もいて、慣れた声で社明についてアピールをしてくださいました。

通行人の方々に対し大きな効果があったと思います。初めての試みです。

(佐藤 益國)



みんなに届け！ 私たちのメッセージ

7月17日（海の日）に、八王子市芸術文化会館「いちょうホール」にて、『みんなに届け！私たちのメッセージ』の集いが開催され、大ホールがほぼ満席となりました。第一部では、平均年齢80歳、元気に楽しくが長寿の秘訣という「八王子プロバスクラブ」の皆さんによる市政100周年にふさわしい「八王子市歌」熱唱後に、第66回“社会を明るくする運動”作文コンテスト表彰式と入賞作品発表がありました。応募総数は299作品、その中から右記の6名が選ばれ市長から賞状と記念品が贈られました。表彰式に続いて4人の受賞者が入賞作品を発表しました。人と人との関わりの中で人はお互いがみがかれて成長していく。誘惑に負けない強い心と、他人を思いやる優しい心を育てるために必要なこと。相手を思いやる優しさが広がる社会を作るためには、私達大人にも気づきの多い発表が続き、会場からは大きな感動の拍手がおくられました。

- ◎八王子市実施委員会最優秀賞
（東京保護観察所長賞）
瀬高 梓さん 別所小学校卒業生
- ◎八王子市実施委員会優秀賞
瀬戸 秀一さん 加住中学校
矢澤 梨央奈さん 横山中学校卒業生
長島 愛さん 緑が丘小学校
中馬 彩香さん 加住中学校
白井 望絵さん 横山中学校卒業生



小・中学生による音楽の集い



第2部の「小・中学生による音楽の集い」では、第五中学校のダンス、由木西小学校の合唱、横山中学校の吹奏楽演奏、の発表がありました。昔懐かしい曲を現代風にアレンジした躍動感あふれる息のあったダンス。難しいハーモニーを見事に歌い上げた合唱。そして、目でも耳でも楽しむ演奏が目標の吹奏楽部の圧倒的なパフォーマンス、さらにアンコールでは会場を巻き込んだ「恋ダンス」まで、それぞれの心を打つ素晴らしい演奏に大きな拍手がわきおこり、時間を忘れるほどでした。

明るい社会づくりに向けた、若い力の素晴らしいメッセージに会場中が包まれ、社会を明るくする運動の推進に向けて、ひとりひとりが新たな思いを胸に抱いた素晴らしい集いとなりました。



第五中学校ダンス



由木西小学校合唱



横山中学校吹奏楽



会場風景

寄稿

微かな音から確かな音へ

元 BBS 会員 三橋 正行



約 40 年前、私は八王子 BBS 会員だった。当時は八王子市立児童館職員で、青少年の育成に夢中で取り組んでいた時期で、八王子レクリエーション学園事務局にも参画していた。“第 2 回いちょう祭り”では当時の BBS 会員をフル動員して「七福神と七悪人」というパフォーマンスを披露するなど、楽しい BBS 会作りに専心していた。毎月第二日曜日午後には多摩少年院訪問活動があり、院生にレクの醍醐味を教えるというプログラムに BBS 会員にとっては必須のレク技術が求められた。『都立八王子青年の家ボランティア研究会』はレク技術取得のための会員の隠れ蓑、当時、帝京大学児童問題研究会から 20 数名、明星・法政・中央大学併せて 10 数名が青年の家に通い、夏合宿、オリエンテーリング、クリスマス会など、自分達の楽しみも優先した。しかし、更生保護を標榜する BBS 会、10 周年機関誌は「微音（びおん）」と命名して発刊した。

最近の八王子 BBS 会の活動を見るに聞くにつけ、頭が下がることばかり。一つが八王子市子ども若者サポートセンターで報告される“支援対象者へのサポート状況”。児童相談所での学習支援活動では中 3 男子に二次方程式・図形問題、高 2 女子に高卒認定試験の指導と聞く。また、中学校から依頼された別室登校の中 2 女子のともだち活動では、登校まで 2 時間待たされることもあるとか。二つが社会貢献活動の一環で『とうきょう元気農場』での援農作業で、都内小学校の学校給食用の作物の収穫（雨天時は切手整理）。三つが「探してクッキング！」で小比企町の中西伸夫氏の畑で収穫した野菜を使って対象者と食事作り。そして、年末の『凧づくり・凧あげ大会』である。

今年は『市制 100 周年記念事業＝親子ふれあい教室』が、10 月 7 日（土）富士森体育館で 100 組の親子が集って開催される。様々な和紙の凧が飾られ、実に壮観であろう。BBS 会員のこのイベントに賭ける情熱が功を奏し、素晴らしい音を奏でてくれるに違いない。（八王子更生保護サポートセンター長）

退任の保護司紹介

～長年お力をいただきました～

(平成 29 年 5 月 14 日任期満了)

○田村 三千子（西分区）
=平成 3 年 5 月 15 日初任

各部・各分区だより

高尾分区 伊勢崎 文子



平成 29 年度の高尾分区は深須達男分区長。阿部かな枝副分区長をリーダーに活動して参ります。

昨年は長い間分区を導いて頂いた廣瀬正夫先生・塚本吉紀先生、本年 5 月は森悦子先生、安田初實先生退任されました。諸先生方が築いて下さった分区のよい部分を残しながらも新たな進化も受け継ぐ者達の責任であると思っております。

昨年 12 月に佐藤ますみ先生・加藤正道先生の 2 名が新任され、分区の仲間入りをされました。

ここ数年、高尾分区にも若い保護司の先生が増えて参りました。若い先生方の意見も取り入れていく事も大切であり、その為にも分区全員の先生方一人ひとりが楽しく活動していける分区にする為の雰囲気作りが大切ではないでしょうか。

まずは親睦を深める為の役員会での活発な意見の交換や情報の収集も必要です。一例として定例研修会後のランチ会で気軽に話せる仲間作りをする事も出来ます。管外宿泊研修会や日帰りでの研修会で雑談形式の体験した事例の対処の成功や失敗を話したり、聞いたりする時間の積み重ねも必要だと思います。また音楽や読書やスポーツの趣味の話も多種あり、教えて頂く事で得る知識も個人では得ることの出来ない知識だと思います。知識を豊かにする事も親睦を深める方法だと思います。分区会の企画も意見や希望を聞き気軽に参加出来る内容になる案作りの決定の話し合いも大切だと思います。一例として、バーベキュー・総会や分区会後の親睦二次会・お花見会・紅葉狩会などはどうでしょうか。

誰でもが、悩みでも質問でも何でも躊躇うことなく話せる分区・活動するのが楽しくなる分区を目指し、和気あいあいの高尾分区で活動を続けていきたいと思っています。

○安田 初實（高尾分区）
=平成 9 年 5 月 15 日初任

○森 悦子（高尾分区）
=平成 9 年 5 月 15 日初任

○小泉 俊男（東分区）
=平成 9 年 5 月 15 日初任

平成 29 年 5 月 14 日付

○角田 幸三（中央分区）
=平成 9 年 5 月 15 日初任

リレーエッセイ

～人とのつながりに思うこと～

みなみ分区 吉田 隆明

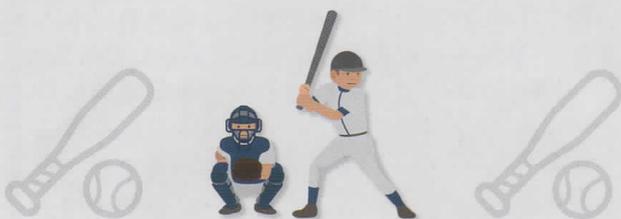


私が、新卒で入社した会社（58 年前）の話ですが、会社に早く馴染むのにはと、軟式野球部に入りました。

特に学生の時に野球をやっていませんでしたが、先輩を含め早く仲間づくり出来るのではとの考えからです。レギュラーには到底なれませんでした。いつの間にかマネジャーをやらされ、他部門との人達との交流も出来て、多くの仲間が出来ました。

しかし、入社後 5 年目に事業拡大に失敗し会社は倒産しました。幸いにも先輩から誘われて、直ぐに新しい会社に行く事が出来、これも野球部に入っていたおかげではないかと思っています。ほとんど忘れかけていた 17 年前に突然、元キャプテンから野球部の集まりをするので参加しないかとの連絡がありました。これは元監督からの提案によるものとのことで、元監督とは年賀状のやり取りはしていたので連絡がきたようです。三十数年ぶりに会いましたが、皆それぞれ苦労しながら道を切り開いていたことが伺われ、若かりし頃の話で大いに盛り上がりました。この時 13 人も集まり奇跡に近いのではと思っています。それから毎年、1 泊で野球部 OB 会として今日まで続いています。いつまで分かりませんが、出来る限り長くつながりを持ち続けたいと思っています。

それから私が保護司になる時の経緯でも人とのつながりがありました。それは既に退任された先輩の保護司の方と元監督が同じ部署の先輩後輩であることがわかりびっくりしたことです。保護司になるか躊躇していた時のことでしたので、決断した要因にもなったと思っています。このことから、人はどこかで何らかのつながりがある生きているのではないかと思うしだいです。



趣味悠々

地域文化の伝承
～私の八王子まつり～

東分区 長谷部 好昭



まつり囃しが聞こえてくる、この時期は子ども達がベテランの大人達に混じって本番（八王子まつり）目指して一生懸命練習している姿が市内各所で見られます。私は、お囃子を聞くだけで自然と楽しく、嬉しくなってきました。毎年まつり囃子を聞くたびに気持ちが昂まります。

この八王子のまつりは江戸時代から約 300 余年の伝統を持つと言われていますが、先人達や先輩達が伝えてきたこの素晴らしいお祭り文化を、ぜひ若者たちに伝え残したいと考えている一人です。

八王子は、江戸初期から甲州街道の宿場町として繁栄してきました。現在は二つの神社（上地区多賀神社・下地区八幡八雲神社）の祭礼として行われていますが、かつての繁栄ぶりは、今でも市街地を中心に豪華な彫刻山車が地域から多数繰り出し、その山車の周りにはお揃いの浴衣姿の旦那衆や祭半纏の可愛い子ども達の姿が見られます。

私は子どもの頃（5 歳）からお祭りに参加して、父や母、近所のお兄さんや地域の皆さん方とともに祭礼に参加しお祭り全体を教わってきました。今度は私が若者に教えて後世に伝える役目をします。

八王子まつりの役員になり 10 数年、全国各地の祭りも見学してきました。特に感激したのは、佐賀の唐津くんち、大阪岸和田のだんじり祭り、千葉の佐原山車まつり、埼玉の川越まつりです。毎年勉強のために見学しに参ります。

八王子まつりは、去年は 3 日間で 80 万人が来王しました。今年は市政 100 周年記念として 19 台の山車が勢揃いする山車総覧を行います。来場者の目標も 100 万人、八王子まつりを関東屈指のお祭りにしたいと思っています。さらに、近年中に八王子まつりがユネスコの無形文化遺産に登録されるよう全国に PR していきます。

シリーズ 保護司による八王子探訪

大横町の人 国直 文蝶 鳶魚 中央分区 柴田 健彦



私が住まいしております大横町は、国道 16 号で東と西に大きく隔てられておりますが、江戸の頃は至極狭い道をはさんで、にぎわっていたことと想像されます。周辺の村々、遠くは織物技術の先進地、桐生や足利へと続く道の、

起点終点として、浅川端の縁起地だったのです。ほぼ地続きで 4 ヶ寺並んでいました。極楽寺、宝樹寺、福全院、移転した大善寺です。神仏習合で福全院には水天宮、宝樹寺には稲荷社、庚申塔、二十三夜塔、猿田彦大神石碑が現存しています。その大横町ゆかりの人、三人が国直、文蝶、鳶魚です。年代にも途切れがなく前二人、後二人は深く重なります。



極楽寺山門

歌川国直（うたがわ くになお 寛政 4 年 1792 ~ 嘉永 7 年 1854）歌川豊春を始祖とする歌川派の浮世絵師です。信濃の出身で、文化 6 年 1809 頃に歌川豊国に入門しました。草双紙挿画など版本作品が多く、錦絵の残存は僅少です。天保の改革で人情本・艶本の出版が不可能となり、弘化 2 年 1845 頃に江戸の大火もあり、八王子へ下がってきました。極楽寺に遊女図、宝樹寺に小鍛冶図がそれぞれ肉筆の献額として残されています。宝樹寺の小鍛冶図は、毎年 8 月最終土曜日の閻魔祭で閻魔堂が開扉される際に拝見することができます。墓所は極楽寺。



宝樹寺閻魔堂

玉川文蝶（たまがわ ぶんちょう 文政 2 年 1819 ~ 明治 34 年 1901）明治時代に流行した幻燈と説教節を融合させた芝居「写し絵」の第一人者です。本名は野和田文永。福生の出で、大横町宝樹寺前（現在の関根自動車在地あたり）で玉川屋という旅籠屋を営んでいました。車人形と同じく、説教節を語り音曲として使ったので、同時公演が可能だったよう

で、一つの曲を幻燈と人形で前段後段で分けたり、幻燈を書き割りのように使ったりしたものと思われる。宝樹寺の閻魔祭（1 月、7 月の 16 日）、福全院水天宮の毎月 5 日の例祭、大善寺毎月 8 日の吞龍祭、妙薬寺毎月 11 日の例祭での公演が有名になっていたようです。大善寺は毎月 4 日と秋の十夜法要にも多くの参詣者を集めましたので、寺院詣でと興業見物、酒食と、年間相当数の方が大横町を訪れ、界限が経済的に潤ったようです。墓所は宝樹寺。

三田村鳶魚（みたむら えんぎょ 明治 3 年 1870 ~ 昭和 27 年 1952）江戸文化風俗の研究家で「江戸学の祖」と呼ばれています。八王子千人同心の家系で、大横町（現在の北斗ツーリスト在地あたり）に生まれました。三田村鳶魚、三村竹清、林若樹をして「江戸通の三大人」と称されています。江戸時代の書き物や聞き書きをもとに執筆したとされ、出版当時の評価は低調でありましたが、近年に至って高く評価されています。中央公論社発刊の「三田村鳶魚全集」は 28 巻からなる大著です。公方様、大奥に始まって庶民の娯楽・食生活まで、博覧強記です。浄瑠璃、説教節、人形芝居、能の巻もあります。大正 13 年には、三田村鳶魚が坪内逍遙・河竹繁俊を八王子に招き、車人形見学の機会をつくったという記録が残っており、この時の八王子説教節の高い評価が語り継がれています。大横町を歩き、「写し絵」、車人形を楽しんだことでしょう。墓所は上野町本立寺。



三田村鳶魚生家地
(大横町 13-3)

参考文献：八王子市郷土資料館発行
「人物コーナー 浮世絵師・歌川国直」
「特別展 写し絵 車人形 説教節」

編集後記

平成 29 年度第 1 回編集会議において、広報誌としての情報の発信のあり方について会議が進行され、「分かり易く、読み易く」、「個人情報を含めた配慮」、「原稿依頼」、「写真の取り込み」、「編集上の配慮」等について協議した結果、「広報誌のあり方と方向性」の理想を模索していこうという有益な発言がありました。私達は保護司会の目線で有意義な情報と、エール、感動を届けたいと思います。（石川記）